



ばんえい十勝の今

帯広単独開催による「ばんえい十勝」は、平成29年、記念すべき10周年を迎えました。この間、帯広競馬場内外の施設やばんえい競馬を取り巻く状況は少しずつ変化してきました。本誌の締めくくりとして、競馬場への集客を促す付属施設の現況、今に至るまでのばんえい十勝のデータ集、さらに、ばんえい競馬70年の歩みをたどる年表を掲載します。



(写真/山岸 伸)

競馬場への呼び水となった 帯広の観光拠点「とかちむら」

ばんえい十勝四年目に誕生した「とかちむら」は、帯広競馬場の観光地化に大きく貢献し、新しい人の流れを生み出しています。



誕生しました。ご神体として祀られているのは「滑り止め」がついたばん馬の冬用蹄鉄。遊び心のある合格祈願の祈名所として、受験生や観光客の関心を集め、お守りや絵馬などの開運グッズも喜ばれています。

産直・飲食・物販の三部門で一貫して「十勝」をアピール

とかちむらは一貫して「十勝を代表する産物や食、人の交流拠点」を目指してきました。地元住民の利用も多い「産直市場」では、管内の生産者が持ち寄る新鮮野菜をはじめ、チーズ、地酒、菓子などを販売。観光客も荷物を気にせず買物を楽しめるよう、宅配便の発送手続きも行っています。

十勝の食が集う「キッチン」には、とかちむらオープン時から人気を集める豚丼専門店「たむら」、帯広の精肉店「肉ノ五右衛門」直営で、ジンギスカンや豚ホルモンなど良質な肉を炭火で焼く焼肉店「成吉思汗屋 肉ノ五右衛門」が店舗を構えています。また平成二十七年四月にはレストラン「ミリオン・サンテ」が新装開店。地場食材をふんだんに使った料理と

毎週金曜日のスイーツバイキングが人気を集め、地元の高校生にも愛用されています。物販ゾーンの「スイーツ&セレクト」では、オープン時から「紫竹ガーデンカフェ」が営業。「紫竹のおばあちゃん」で全国に知られる帯広郊外の人気が、手作りスイーツやガーデン雑貨を提供しています。

平成二十六年には「大蝦夷農業高校銀匙購買部とかち帯広支店」が、産直市場から「スイーツ&セレクト」に移動。それとともに、十勝管内のアーティストやクリエイターが手がけたオリジナル作品や十勝産の素材を使った菓子を扱う「ローカリスト」が誕生し、若い世代の支持を集めています。

このほか、屋外スペースではフリーマーケットやクレープ販売、グルメブースの出店、ピザ焼き体験など、季節によってさまざまなイベントを開催。平成二十八年には「おびひろ氷まつり」と連動し、ばん馬の氷像やアイスラタン、雪の滑り台の設置など、冬季の集客にも力を入れています。誕生から七年たった今、とかちむらは年間三十万人以上が訪れる観光スポットとなっています。

観光客にも地元住民にも親しまれる交流拠点を目指す

「とかちむら」は平成二十二年、帯広競馬場の複合施設化を目指す「ばんえい十勝にぎわい創出プロジェクト」の一環として誕生しました。帯広市による同プロジェクトは、競馬場を観光資源として有効活用し、人が集まる魅力的な空間を創出。帯広・十勝の観光拠点とすることが目的でした。

八月六日、テープカットのセレモニーとともにオープン。当日は好天に恵まれ、夏休み中の家族連れで賑わいました。とかちむらを構成するのは「産直市場」「キッチン（飲食）」「スイーツ&セレクト（物販）」の三つのゾーン。これまでにない施設の誕生に従来の競馬場の雰囲気も払拭され、女



とかちむら

【営業時間】
10:00~19:00 (4/29~)
10:00~18:00 (11/1~)
【定休日】
年中無休
*飲食店は店により営業時間、定休日ともに異なる。

性も訪れやすい場所になったと好評を博しました。平成二十四年度には春夏の半年間で来場者数が約十八万人に。フリーマーケットや音楽イベントなど地域密着型イベントを開催し、地元住民の利用を促した成果でもありました。

さらに集客を後押ししたのが、帯広が舞台モデルとなったコミック『銀の匙 Silver Spoon』の大ヒット。アニメ化に次いで映画化もされ、作中で描かれた帯広競馬場を訪れる観光客が増加。「聖地」にやってくる銀匙ファンを対象に、平成二十五年十月には「産直市場」内に「大蝦夷農業高校銀匙購買部とかち帯広支店」がオープン。ここでしか買えない「銀匙グッズ」が話題となりました。

また平成二十六年十二月末には「鞍馬（ひきうま）神社」が



とかちむら 産直市場
十勝産の食材がそろった「産直市場」。新鮮な野菜を求めて、朝から訪れる地元住民も多い。

とかちむら スイーツ&セレクト

とかちむら キッチン



「鞍馬神社」に祈願して実際にご利益があったという来訪者も。オリジナルの絵馬やお守りも好評。



どの店で注文しても共用ラウンジで飲食できるので、観光客にも競馬ファンにも気軽に利用されている。夏季は屋外のゲル内でも飲食可。

ふれあい動物園

馬や小動物と身近に触れ合える
家族連れの憩いのスポット

パドック跡地に ミニ動物園が誕生

帯広単独開催が始まった平成十九年、帯広競馬場には幾つもの新施設が設置されました。「ふれあい動物園」もそのひとつです。競馬場改修の際、スタンド正面側に移動したパドックの跡地の活用について、当時、北海道ばんえい



新しくなった馬房にはPRばん馬3頭のほか、ひき馬・乗馬用の馬たちも。

い競馬調騎会会長だった服部義幸調教師から「家族連れの来場者などが、もっと身近にばん馬や動物たちと触れ合える施設を設置してはどうか」と提案がありました。これを機に、服部調教師ら有志スタッフ、工具や材料を持ち寄って手作りのミニ動物園をスタートさせたのが始まりです。以来、誰でも予約なしでひき馬体験ができるサービスが来園者、特に子どもたちに大好評。「ふれあい動物園」の人気を定着させました。

リニューアルして 新スポットに

平成二十七年には、帯広市に寄せられた寄附金をもとに、ふれあい動物園を全面改修。ひき馬や乗馬訓練ができる馬場を囲むようにして、馬房、ポニー舎、ウサギや羊などの小動物コーナーが並び、休日になると動物たちにニンジンをおあげる家族連れで賑わいます。

馬の資料館

十勝の馬と人の歴史に触れ、
ばんえい競馬のルーツを知る

馬産王国・十勝の 歴史を伝える

「馬の資料館」は、十勝開拓のために人と馬がともに働いた時代の歴史資料を収集し、後世に語り継ぐため平成二年に開館。十勝農業協同組合連合会が所有し、とちむらによって運営されています。



かつて十勝は「馬産王国」と称された時代がありました。明治初期、本州から馬を導入し、人と馬が力を合わせて農作業、交通、運搬を担ったことから十勝の歴史が始まります。こうした歴史を伝えるべく、館内には財団法人地方競馬全国協会をはじめ、百を超える個人・団体から提供された資料が展示されています。

本館一階には、馬を使った畑起こし（馬耕）のレプリカなどが展示され、二階にはばんえい競馬の成り立ちをはじめ、十勝の馬に関する歴史資料が集められています。また別館には、馬が動力の中心だった時代の農機具や馬そりも展示されています。

競馬場入口正面にあるため、レースが始まる前に立ち寄る観光客も多く、十勝の馬文化の発信地となっています。

馬房には、PRばん馬としておなじみのリッキー、ミルキー、キングの三頭も顔をそろえ、初めてばん馬を間近で見る人々を楽しませていきます。園内の一角には「ばんばギャラリー」を新設。来園者のための休憩スペースを兼ね、ばんえい競走とそのルーツである馬文化にまつわる展示を行っています。



服部調教師に乗馬指導を受ける子どもたち。



展示室と休憩所を兼ねたばんばギャラリー。

ふれあい動物園

開園時間／ばんえい競馬開催日10:00～17:00
非開催日11:00～15:00
定休日／毎週火曜日
ひき馬乗馬体験／1回1周300円（予約不要）



馬の資料館

開館時間／10:00～16:00（年中無休）
入館料／無料

ばんえいギャラリー・資料館 ばんえいコレクションが並ぶ小さなミュージアム

平成26年には帯広競馬場のスタンド1階南側、休憩コーナーの奥に「ばんえいギャラリー」を設置。当初はばんえい写真展などを開催していましたが、現在は写真展示のみならず、資料館としてさまざまな資料を常設展示しています。

歴史資料や関連書籍、歴代名馬の写真、ばんえいオリジナルグッズ、ばんえいがテーマとなった映画やテレビドラマの媒体資料、制作記録など、展示内容は多岐にわたり、壁面には、ばんえい関連作品の出演者や帯広競馬場を訪れた著名人の色紙も。スペースは小さいながら充実したコレクションで、訪れたファンの目を楽しませています。



テレビドラマ「大地のファンファーレ」のポスターや撮影時の写真なども展示。



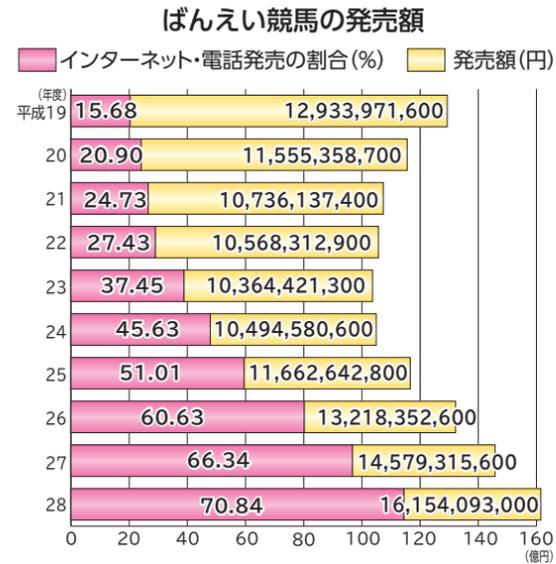
ばんえいオリジナルグッズを集めたコーナーも。

発売額の推移と入場者動向

好調に伸びるネット発売

帯広単独開催が始まった平成19年度、ばんえい競馬の発売額は130億円に迫る数字を記録しました。その後、連続して減少したものの、平成23年度を底にして、翌24年度以降は増加に転じ、好調に推移。平成28年度においては、単独開催後最高の160億円超を記録しました。

この順調な発売額の増加には、インターネット・電話投票による発売が大きく寄与しています。全発売額に占めるインターネット・電話発売の割合は、初年度の15.68%から年々伸び続け、平成28年度には、70.84%を占めるまでになりました。全国の地方競馬が終了した後もばんえい十勝ではナイター競馬を開催しているため、その効果も発売額増加に貢献していると見られます。



入場者数も順調に増加

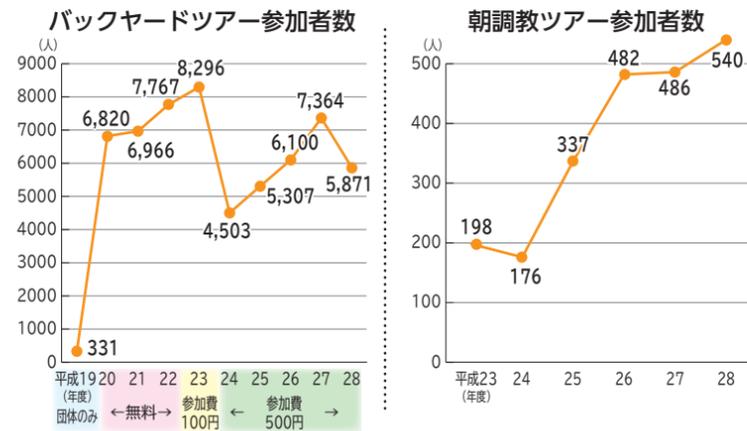
発売額と同様、帯広競馬場の入場者数も、初年度に約237,000人を記録した後に減少しましたが、平成22年度以降は持ち直し、徐々に増加。平成25年度からは常に26万人以上の入場者数をキープしています。

これは、ばんえい競馬が各メディアで取り上げられ、観光スポットとして全国的に知られるようになったこと、人気漫画『銀の匙 Silver Spoon』のアニメ化・実写映画化の影響、レースだけでなく市民も観光客も楽しめるさまざまなイベントを開催したことなどの効果と推測されます。



ばんえい各種ツアーも好評

初年度に団体のみを対象として始まったバックヤードツアーを、翌年度からは個人も対象として実施。当初は無料でしたが、有料化して一時参加者数が減少しましたが、その後は順調に増加。平成27年度には、7,364人が参加しました。平成22年度から開始した朝調教ツアーも、目玉ツアーとして人気を集め、平成28年度には、540人が参加しています。



帯広競馬場限定 ばんえい十勝応援グッズ

ばんえい十勝発足後、帯広競馬場スタンド内には、従来の売店に加え「リッキーハウス」がオープンし、とちむらにはご当地お土産ショップが誕生。各店舗でばんえい競馬やばん馬をモチーフにしたオリジナルグッズを販売し、来場記念や旅のお土産としてお客様の人気を集めています。

* 価格は平成28年現在の税込価格。



全店共通のばんえい十勝公式キャラクターリッキーストラップ ¥702

帯広競馬場売店 (北海興農ビジネス運営)



ばんえい競馬Tシャツ
ソリをひくばん馬の絵柄が観光客に人気。
各¥1,980
サイズ/M、L、XL
カラー/黒、オレンジ、白、赤、緑など

ばんば君キーホルダー ¥756



ばんえい競馬ステッカー
切り抜きタイプと四角タイプがあり、色・サイズとも豊富。
各¥270



ばんば君シリーズ
道内のイラストレーター、まうのすけさんのデザイン。
左から
ノート¥270
ポストカード¥162
あぶらとり紙¥410
マグネット¥270

Localista (とちむら内ローカリスト)



JIMOTOジモート
帯広名物をモチーフにした丈夫なコットン製トート。
大¥1,620、小¥1,296
カラー/ネイビー、白



ばん馬缶バッチ
十勝のデザインチーム作成の帯広競馬場限定商品。
¥162



とちむらオリジナルおはし蹄鉄をモチーフにしたホルダー兼箸置きつき。道産木材使用。サイズ/大、中、小 各¥780

馬九(うまく)いく絵馬
勝負運、金運、出世運、家庭運、愛情運、健康運、商売繁盛、豊漁豊作、受験合格と九つの運氣を表す九頭馬が描かれている。
一個 ¥715

リッキーハウス (NPO法人とち馬文化を支える会運営)

受験のお守り蹄鉄
ばん馬の冬用蹄鉄はギザギザの「滑り止め」つき。
¥2,600



ばん馬使用済み蹄鉄
競走馬が実際に使用した蹄鉄を研磨した一点もの。
¥1,550



STOP&GO
ハニカムエアークラップ帽子
通気性のいいハニカム構造。お揃いの柄のTシャツも人気。
各¥1,350
カラー/赤、黒、ピンクなど

ばん馬シャープペンシル
鹿毛と白馬の柄があり、それぞれ5色。
各¥280
カラー/赤、黒、青、緑、黄



ばん馬メモ帳
シャープペンシルとお揃いで。
各¥280



競馬魂・3シーズン用キャップ
ツバにライン入り。
¥1,350
カラー/ベージュ、黒

最高峰レース「ばんえい記念」歴代優勝馬

平成19年度～28年度

第40回 平成20年3月23日 天候/晴 馬場水分/0.6

記録 5分35秒8

トモエパワー(牡8)

騎手:西 弘美
調教師:松井 浩文
馬主:酒井 兼益
生産者:三井 樹雄(帯広市)



第41回 平成21年3月29日 天候/晴 馬場水分/2.3

記録 4分50秒8

トモエパワー(牡9)

騎手:西 弘美
調教師:松井 浩文
馬主:酒井 兼益
生産者:三井 樹雄(帯広市)



第42回 平成22年3月28日 天候/晴 馬場水分/4.6

記録 4分24秒8

ニシキダイジン(牡9)

騎手:藤野 俊一
調教師:金田 勇
馬主:仙頭 富萬
生産者:菅野 富夫(足寄町)



第43回 平成23年3月27日 天候/晴 馬場水分/0.9

記録 4分07秒7

カネサブラック(牡9)

騎手:松田 道明
調教師:松井 浩文
馬主:(有)トーヨーファーム
生産者:(株)坂井牧場(旭川市)



第44回 平成24年3月25日 天候/曇 馬場水分/5.1

記録 2分34秒0

ニシキダイジン(牡11)

騎手:鈴木 恵介
調教師:村上 慎一
馬主:仙頭 富萬
生産者:菅野 富夫(足寄町)



第45回 平成25年3月24日 天候/晴 馬場水分/1.8

記録 4分07秒7

カネサブラック(牡11)

騎手:松田 道明
調教師:松井 浩文
馬主:(有)トーヨーファーム
生産者:(株)坂井牧場(旭川市)



第46回 平成26年3月23日 天候/晴 馬場水分/2.7

記録 4分13秒2

インフィニティー(牡8)

騎手:浅田 達矢
調教師:金田 勇
馬主:駒井 鉄雄
生産者:坂井 健一(標茶町)



第47回 平成27年3月22日 天候/曇 馬場水分/2.4

記録 3分49秒9

キタノタイショウ(牡9)

騎手:大河原和雄
調教師:服部 義幸
馬主:木下 英三
生産者:衣原 国雄(豊頃町)



第48回 平成28年3月20日 天候/晴 馬場水分/1.7

記録 3分41秒5

フジダイビクトリー(牡8)

騎手:松田 道明
調教師:金山 明彦
馬主:(株)三上建設
生産者:本寺 政則(本別町)



第49回 平成29年3月20日 天候/晴 馬場水分/0.6

記録 4分7秒6

オレノココロ(牡7)

騎手:鈴木 恵介
調教師:梶館 重人
馬主:大森 勝廣
生産者:六車 實子(土幌町)



ばんえい十勝歴代チャンピオンの記録

平成19年度～28年度

NARグランプリ ばんえい最優秀馬 *NAR(地方競馬全国協会)により暦年単位で表彰

平成19年



トモエパワー
(平成24年3月引退)

平成20年



ナリタボブサップ
(平成25年3月引退)

平成21年



カネサブラック
(平成25年3月引退)

平成22年



ニシキダイジン
(平成24年3月引退)

平成23～25年



カネサブラック
(平成25年3月引退)

平成26年



インフィニティー
(平成28年3月引退)

平成27年



キタノタイショウ
(平成29年3月引退)

平成28年



フジダイビクトリー

優秀騎手 リーディング賞 第1位

平成19年度



鈴木 勝堤
(平成22年11月引退)

平成20～28年度



鈴木 恵介

優秀調教師 リーディング賞 第1位

平成19～21年度



服部 義幸

平成22年度



岩本 利春

平成23～25年度



服部 義幸

平成26年度



西 弘美

平成27年度



村上 慎一

平成28年度



服部 義幸

平成元年(1989年)	4市が北海道市営競馬組合設立。 金山明彦騎手2000勝達成(8月7日岩見沢競馬場)。
平成2年(1990年)	タカラフジ、ばんえい競馬2頭目の1億円馬となる。 売上金額300億円の大台突破、321億円を記録する。
平成3年(1991年)	船橋競馬場にて、ばんえいアトラクションを開催。
平成4年(1992年)	ヒカルテンリュウ、ばんえい競馬3頭目の1億円馬となる。 久田守騎手が自己の持つ年間155勝(元年)の記録を更新し年間161勝の記録を樹立。 尾ヶ瀬馨騎手が日本プロスポーツ大賞新人賞を受賞。
平成5年(1993年)	ばんえい界初の女性きゅう務員誕生。 ばんえい初の年末年始競馬開催実施。
平成6年(1994年)	帯広競馬場走路ヒーティング施行。 アサギリ、ばんえい競馬4頭目の1億円馬となる。 ばんえい競馬マスコットキャラクター「リッキー」制作。
平成8年(1996年)	久田守選手2000勝達成(1月15日帯広競馬場)。 マルゼンバージ、ばんえい競馬5頭目の1億円馬となる。 金山明彦騎手が久田騎手の持つ年間161勝の記録を更新し年間163勝の記録を樹立。 とんねるず北見競馬場来場。(7月3日・11月20日帯広競馬場) ばん馬と象の対決。(9月8日帯広競馬場)
平成9年(1997年)	ばんえい界初の女性騎手誕生。(辻本由美騎手1月11日帯広競馬場デビュー) 金山明彦騎手3000勝達成。
平成10年(1998年)	サカノタイソン、19連勝達成。 フクイチ、ばんえい競馬6頭目の1億円馬となる。
平成13年(2001年)	フランスで行われた世界ペルシュロン大会に招かれ、模擬レース実施。
平成14年(2002年)	ハロンズ苫小牧オープン。 坂本東一騎手・藤本匠騎手2000勝達成。 高橋洋典騎手日本プロスポーツ大賞新人賞受賞。 佐藤希世子騎手NARグランプリ優秀女性騎手賞を受賞。
平成15年(2003年)	Aiba小樽・滝川で場外発売開始。 大井競馬場ふるさとコーナーで場外発売開始。 岩本利春騎手2000勝達成。
平成16年(2004年)	ハロンズ名寄オープン。 Aiba中標津・留萌・札幌駅前でも場外発売開始。 北海道の馬文化として北海道遺産に選定される。
平成17年(2005年)	スーパーベガサス、「ばんえい記念」史上初の3連覇。 西弘美騎手2000勝達成。 Aiba千歳・函館港町でも場外発売開始。 映画『雪に願うこと』東京国際映画祭でグランプリを含む4冠に輝く。

ばんえい年表

ばんえい競馬70年の歩み

昭和21年(1946年)	地方競馬施行規則第9条により、地方競馬に初めて「ばんえい競走」が加えられる。
昭和22年(1947年)	北海道馬匹組合連合会の主催で、旭川・岩見沢で各2日間ばんえい競走が開催される。
昭和23年(1948年)	競馬法改正により、国営競馬と地方競馬は都道府県の指定市町村の主催となる。
昭和24年(1949年)	旭川・帯広にて道主催の「ばんえい競馬」を各2日間開催。
昭和28年(1953年)	旭川、帯広、北見、岩見沢で市営競馬発足。 平地 帯広2回9日 旭川、北見、岩見沢各1回13日 計5回22日 ばんえい 帯広、岩見沢各2回8日 旭川、北見各1回5日 計6回13日
昭和38年(1963年)	旭川競馬場のばんえい走路をU字から直線コースに改善。 旭川で対面着順写真(スリットスキャン)判定採用。 帯広・北見・岩見沢の競馬場で採用されたのは昭和44年だった。
昭和39年(1964年)	馬の体型による格付区分を体重制に改正。
昭和40年(1965年)	岩見沢競馬場移転。
昭和41年(1966年)	道営ばんえい競馬を中止し、全面的に市営主催となる。
昭和43年(1968年)	帯広・北見・岩見沢のばんえい走路をU字から直線コースに変更。
昭和46年(1971年)	鉄製そり、鉄製引木、グラスファイバー製かじ棒の採用。 スターティングゲート設置。
昭和48年(1973年)	東京大井競馬場にて、ばんえいアトラクションを開催。 馬の格付区分を取得賞金制に改正。 帯広の馬券売上高上昇率188.5%(全国伸び率第一位)。 4市合計でばんえい有史以来の記録を達成。
昭和49年(1974年)	北見競馬場移転新築落成。 帯広競馬場スタンド新築落成。 馬場状況の判定に赤外線水分計を使用し含水度による表示を実施。
昭和50年(1975年)	旭川競馬場移転新築落成。
昭和51年(1976年)	鉄そり、重量物の改良型採用。
昭和53年(1978年)	出走馬年齢を10歳以下に制限。 宇都宮競馬場で、ばんえいアトラクションを開催。
昭和58年(1983年)	水沢競馬場にて、ばんえいアトラクションを開催。
昭和59年(1984年)	4市競馬場で相互場外発売開始、並びに中央競馬釧路サービスセンターでの場外発売実施。
昭和61年(1986年)	キンタロー、ばんえい史上初の賞金取得額1億円を達成(8月24日岩見沢競馬場)。

平成25年(2013年) 帯広競馬場ほか場外発売所4カ所で中央競馬勝馬投票券の発売開始。深川場外発売所開設。帯広市ばんえい競馬運営ビジョンの一部見直しを実施。帯広市単独開催7年目で初の黒字。大河原和雄騎手日本プロスポーツ大賞功労賞を受賞。映画『銀の匙』の撮影に協力。

平成26年(2014年) 大河原和雄騎手3000勝達成。勝馬投票券の払い戻し率を改定。総合案内所リニューアル、ばんえいギャラリー新設。コトブキライアン、ばんえい競馬史上最高齢(14歳5カ月)での勝利記録達成(9月21日)。CSスカパー「地方競馬ナイン」開始。ばんえい競馬もライブ放映に。

平成27年(2015年) 競馬業務委託先として(株)ティワイネット、北海道有線放送(株)と契約締結。新投票方法(拡大馬番号2連勝複式・枠番号2連勝複式)の導入。名寄・深川場外発売所で中央競馬勝馬投票券の発売開始。ふれあい動物園、コース脇イルミネーションをリニューアル。キング、3頭目のPRばん馬として帯広市特別嘱託職員に就任。ばんえい十勝フリーマガジン「Pommele(ポムレ)」創刊。服部義幸調教師2000勝達成。尾ヶ瀬馨騎手2000勝達成。

平成28年(2016年) 鈴木恵介騎手2000勝達成。三連勝単式にて、ばんえい史上最高配当2,550,690円の記録更新(4月23日)。西謙一騎手、ばんえい史上最短のデビューから9年目で1000勝達成(10月30日)。セレクト7重勝単勝式にて、ばんえい史上最高配当15,883,590円を記録(12月24日)。

平成29年(2017年) 1日の発売が215,890,300円となり、帯広市単独開催後最高発売額を記録(1月2日)。松田道明騎手2000勝達成。ばんえい十勝公式ホームページリニューアル。

平成18年(2006年) ばんえい界初の女性調教師誕生(谷あゆみ調教師)。Aiba江別で場外発売開始。大河原和雄騎手2000勝達成。スーパーベガス、「ばんえい記念」4連覇・史上7頭目の1億円馬となる。旭川市、北見市、岩見沢市がばんえい撤退を表明。

平成19年(2007年) ばんえい競馬帯広市による単独開催へ。オッズパーク・ばんえい・マネジメント(株)設立、開催業務の一部を運営。4月27～30日、新生ばんえい「ばんえい十勝」オープニングイベント開催。リッキー、PRばん馬として帯広市特別嘱託職員に就任し、特別住民登録する。公募により新ファンファーレ決定。西弘美・謙一、現役親子騎手誕生。スタンドフェンスエキサイトゾーンの拡張。ふれあい動物園(ミニ動物園)開設。初のナイター開催を実施(6月16日)、イルミネーション点灯。「とちばん馬まつり」開催。以後、毎年恒例イベントに。坂本東一騎手日本プロスポーツ大賞功労賞を受賞。西謙一騎手NARグランプリ優秀新人騎手賞を受賞。

平成20年(2008年) ミルキー、PRばん馬として帯広市特別嘱託職員に就任。帯広競馬場の馬券発売窓口の自動発売機導入。トモエパワー、ばんえい記念3連覇達成。

平成21年(2009年) 旭川北彩都場外発売所開設、北見場外発売所移転開設。発走時刻を1時間遅らせる「薄暮レース」開催(5月9日より)。5重勝式馬券のインターネット発売開始。長澤幸太騎手日本プロスポーツ大賞新人賞を受賞。

平成22年(2010年) 帯広競馬場敷地内に観光交流拠点施設「とちむら」オープン。網走場外発売所開設。JRAジョッキーDAYに武豊騎手が初来場。藤本匠騎手日本プロスポーツ大賞功労賞を受賞。朝調教ツアーをスタート(12月26日)。

平成23年(2011年) オッズパーク・ばんえい・マネジメント(株)より、ばんえいオペレーションズ(株)に変更。3連勝賭式勝馬投票券の導入、併せて枠番号2連勝複式の廃止。帯広市ばんえい競馬運営ビジョンの策定。島津新騎手日本プロスポーツ大賞新人賞を受賞。鈴木恵介騎手ばんえい競馬年間最多勝記録246勝を達成。

平成24年(2012年) NHK北海道発スペシャルドラマ『大地のファンファーレ』制作・放送される(2月17・24日)。競馬事務委託先として株式会社コンピューター・ビジネスと契約締結。琴似駅前場外発売所開設。藤本匠騎手ばんえい競馬歴代通算最多勝(騎手)となる3300勝を達成。7重勝式馬券のインターネット発売開始。カネサブラック、ばんえい競馬史上最高の通算重賞勝利数21勝を達成。